

# 断章 旭川のアイヌ語地名研究

(65)

高橋 基

前号で、カムイコタンの中心的な伝説の「鬼の足跡」を紹介した。今回は伝説の発端から、鬼神あるいは魔神といわれたニツネカムイが、文化神サマイクルに征伐されるまでの壮大な伝説を、地図を参照しながら、アイヌ語地名解で概観する。ただし、伝承者によって多少内容が異なるが、諸説勘案して紹介する(○番号と地図○は同一)。

伝説の発端は、鬼神ニツネカムイが、上川アイヌの麿殺を企てて、山の上から大岩をカムイコタンの狭流に投げ込み、石狩川を堰き止め水攻めにしようとした。鬼神ニツネカムイが川をせき止めた、川幅一杯に並んだ大岩が、①テシ(tes 梁)である。明治二十三年にカムイコタンを調査した永田方正は、次のように地名解をした。

①【川中】テシ(tes 岩梁)―川中に数十の大岩乱立して殆んど梁の如し。故に名く。アイヌ云、鬼神岩を以て梁となし、此河水を止む。神あり鬼を殺し梁を毀ち、水を通流せしむ」とこの川中の大岩を山のカムイの熊が一部を壊し、応援に駆けつけた文化神サマイクルが、これを破壊して水が流れるようにした。その上、ニツネカムイと激闘の結果、劣勢の魔神ニツネカムイが、②のクツネシリ(神居岩)に逃げ込んだ。

②【右岸】クツネシリ(kut-ne-sir 岩崖)をなしている。山―神居古潭のトンネルの上に見える山。義経山。(註・現称は神居岩)

右は、当連載④で紹介した、昭和三十五年の知里真志保の地名解で、知里

## 旭川のカムイコタン 22

カムイはたまらずにこの砦に逃げ込んだという。サマイクルはなおも追いかけてこのクツネシリでニツネカムイを捕まえて、ここから魔神を蹴飛ばしたところ、ニツネカムイは遙か下の石狩川の中の岩場の③で、両足がズボツと抜かり、なおもそこから逃げだそうとする所を、追ってきたサマイクルが切りつけたが、魔神に当たらずに岩の上に十文字の切り創を残した。それが前回紹介した、「鬼の足跡」と「エムシケシ」である。「知里地名解」を再掲させていただく。

③【左岸】①ニツネカムイ・オラオシマイ(nitnekamuy-orawosma

「魔神がそこでぬかった所」↓「鬼の足跡」

②「エムシケシ(emus-kes 刀の端)―サマイクルが魔神に切りつけたときの刀痕だという」

ここからなおも文化神サマイクルは、魔神ニツネカムイを追いかけて、現在の神居第三線川の側で、とうとうニツネカムイはサマイクルに首をはねられ、④魔神の大きな体は左岸の大岩になって残り、⑤首は対岸に飛んで岩となったという。「知里地名解」では、岩に記し、魔神の最期を伝えている。

④【左岸】①ニツネカムイネトパケ(nitnekamuy-netopakke 魔神の胴体)

②「ニツネカムイパケ(nitnekamuy-pakehe 魔神の頭)―胴体の上の岩こう。

⑤【右岸】ニツネカムイノツケウエ(nitnekamuy-notkewe 魔神のあご)↓別称「鬼の首」

写真は、国道十二号線拡張のために、魔神の胴体に、昭和五十四年、「ニツネカムイ覆道」が作られ、伝説の岩が漸く保存されたもの。

次回も伝説の端緒となったテシ(tes 梁)について、天塩川のそれを含め詳述したい。(アイヌ語地名研究会幹事)

※毎月第1週号に掲載します

サマイクルはニツネカムイを征伐しようとして戦いになり、サマイクルの圧倒的な力に、ニツネ



魔神の胴体―平成3年3月―

